

横山幸次

区政報告
ニュース

465

2012年4月22日

発行 日本共産党区議団

3802-4627

fax 3806-9246

✉ arajcp@tcn-cat

v.ne.jp

町屋相談室

荒川区町屋5-3-5

3895-0504

✉ yoko1951@aol.jp

横山幸次区議のホームページ・ブログをご覧ください。
「横山幸次」で検索して下さい。

町屋など旧ひろば館の活用方針が出されました



上が地蔵堀、下が町屋の旧ひろば館



旧町屋ひろば館はドンボスコ保育園改築の仮園舎：住民の声も聞き防災や区民サービスにも配慮した活用を

4月16日の総務企画委員会に廃止された旧ひろば館の活用計画案が出されました。旧町屋ひろば館は、荒川郵便局側のドンボスコ保育園が改築のため、来年度一年間保育園の仮園舎として使用する方向で検討。保育園の改築は、耐震化など安全性の確保、環境整備など大事なことです。現在通っておられる保護者の方にとって地理的には結構遠くになりますが、どうなっているのかも心配です。同時に旧町屋ひろば館は、

今後中・長期的な活用について住民の声も聞くとともに、中高生を含めた子どもたちの居場所としての活用などを検討してはどうでしょうか。

他の活用計画でも公園や道路、事業用など公的な用途にするようです。旧峡田ひろば館は、売却となっていますが、条件付き一般競争入札にするようです。こういった条件を付けるかも問われます。

いずれにしても各施設は、長年周辺住民に親しまれてきました。周辺住民の理解や納得も得ながら進めることが大事ではないでしょうか。

いすれにしても各施設は、長年周辺住民に親しまれてきました。周辺住民の理解や納得も得ながら進めることが大事ではないでしょうか。



第26回「川の手荒川まつり」4月29日・尾久の原公園で開催

日時4月29日(日)
10時～4時まで 雨天決行
尾久の原公園と東尾久運動場など使って開催されます。連休の初日みなさんでお出かけしては...



ひろば館名	活用方針
町屋	ドンボスコ保育園の改築に伴う仮園舎として活用を検討
地蔵堀	建物を除却し、地蔵堀児童遊園の拡張用地として活用
瑞光	建物を除却し、道路拡幅事業等による転居者の代替地として活用
峡田	建物を除却、土地を条件付一般競争入札で売却
小台橋	建物を除却し、防災広場・グリーンスポット等として活用

裏面 都の首都直下地震被害想定、保育費補助...

定例法律相談

5月7日(月)
午後6時～8時
横山区議事務所

弁護士と横山区議が相談をお受けします。秘密は厳守します。お急ぎの場合は、北千住法律事務所の相談日などご紹介いたします。
生活相談は、随時受け付けています。
TEL&FAX 3895-0504
不在時は、留守電へ、後で連絡します。
区役所控室 3802-4627

「防災まちづくり」の歩みは...? いざというときの備えは区政の最重要課題

建物耐震化、生活道路拡幅など防災まちづくりは、なかなか進みません。経済的理由や複雑な権利関係などで建て替え・耐震補強・住み替えもままならない、道路を拡幅すると家がなくなるなど個人の努力ではどうにもならないことが多すぎます。そうした障壁を取り除き住民の命と財産を守ることが荒川区の仕事。そこに区が「人・金・物」を思い切って投入すべきです。大地震はいつ起こるかわかりません。初期消火や避難路確保、避難所整備、食料の備蓄など念には念を入れることが大事です。区は、赤バケツを大量に購入しました。家の前にぼつんと置いてあるところもあります。一方消火器も一定数配備してあります。いざというときに確実に使える仕組み作りが急がれます。 横山幸次

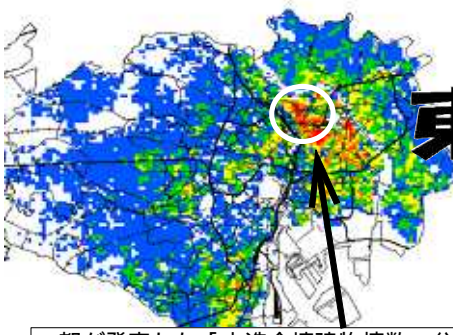


上は、二峡小プール側のドラム缶とバケツ、配備している消火器
右は拡幅された二峡小側の道路

下は町屋の豊島通り、6月に拡幅する計画だがいつ完成するのか?



首都直下地震による 東京の被害想定…公表



都が発表した「木造全壊建物棟数」分布図。内が荒川区のあたりで、一番全壊の多い赤色が集中。ほぼ火災延焼地域とも重なっています。



また荒川区の場合、火災延焼と建物倒壊地域が一致、そこに被害が集中しているのが特徴です。とりもなおさず住宅の耐震化、木造密集市街地の改善整備に本腰を入れるこ

被害となっています。



		風速 8 m/s		風速 4 m/s	
		焼失棟数	焼失率	焼失棟数	焼失率
冬 18時	荒川区	5,521	13.7%	5,363	13.3%
	23区	195,309	11.1%	183,774	10.4%
冬 12時	荒川区	699	1.7%	681	1.7%
	23区	51,901	2.9%	48,520	2.7%
冬 5時	荒川区	400	1.0%	388	1.0%
	23区	19,528	1.1%	18,218	1.0%

4月18日、東京都は「首都直下地震等による東京の被害想定」を公表。以前から震度7の可能性や被害想定が拡大が言われていたが、公表結果を見ると全般的には「死者」が最大で9700人、前回比で1.5倍となつています。荒川区の場合、時間帯や風速は違いますが471人(朝5時冬風速8m/s)と前回より100人以上増えています。被害人数では荒川区より多い区もありますが、人口比だと最も大きな被害となっています。

とが、最大の防災対策です。今後この「想定」について荒川区内の状況を順次検証してお知らせしていきます。大事なことは、地震発生の確率や想定に一喜一憂するのではなく、どこでも震度7に対応できる準備を進めることではないでしょうか。みなさんのご意見をお寄せ下さい。

被害想定は大幅に増加……やはり荒川区は建物耐震化が最大の課題

ゆれ・液状化・急傾斜地崩壊による建物被害(東京湾北部地震)

	原因別建物全壊棟数				原因別建物半壊棟数			
	計	ゆれ	液状化	急傾斜地崩壊	計	ゆれ	液状化	急傾斜地崩壊
荒川区	7,217	7,180	32	4	11,488	9,704	1,777	7
23区合計	111,898	110,145	1,109	644	295,020	232,268	61,668	1,084

お知らせ…

認証保育園と保育ママなどの 保育料差額補助を実施

荒川区は、認可保育園に入れないうちが今年も多数になり、保育料の格差を正すために新たに補助金交付を決めました。

今年度から新しい補助を受けることが

出来るのは、4月から認証保育園に入所した家庭と現在、家庭福祉員(保育ママ)を利用している家庭で、保育指数が15以上(就職内定で働き出せばOK)。「認可保育園」に入園した場合の保育料との差額を補助(月6万円限度)保護者の口座に振り込む。5月中には該当者にお知らせが届きます。なお認証保育園にすでに入っていた進級園児は卒園まで、これまで支給されていた定額補助(0才13000円 1~2才12000円 3才以上11000円)を継続します。

月額保育料はどうなるの

- 認可保育園
所得に応じて26段階 0~57,500円
- 認証保育所・認定こども園
約50,000円~70,000円
- しおいり保育室
保育時間に応じて35,000円~47,000円
- 家庭福祉員(保育ママ)
0才児25,000円・1,2才児20,000円

老朽空家住宅除去助成制度ができました

荒川区は、防災まちづくりの一環として老朽化した空家による被害を防ぐため3年間で期間に「老朽空家住宅除去助成制度」をはじめます。危険な空き家への対処を求める相談は、相談が年間20軒程度。区が把握している空家は、区内400軒程ですが、3年間で対象建築物に該当する60

軒の除去を予定。

持ち主が判明しない家屋については区が臆本も取り寄せて、所有者を探し働きかけるなどして推進します。

対象建築物

- 1年以上使用されていない空家
- 住宅部分が2分の1以上
- 1981年5月31日以前に建築
- 区の診断で倒壊等の危険が高い建物

申込者

- 対象建築物の所有者(個人または中小企業)
- 不動産業者の事業としての除去工事は対象外

補助内容

除去費用の3分の2 限度額100万円

問い合わせ：3802-3111 内線2846・2847